

ちいさな 建設

日本一小さな公園



南の島の物語

まるで絵本のなかのワンシーン。長崎県西海市の離島、松島の西側の海辺にある「日本一小さな公園」は、二人掛けくらいのベンチ一つと、シユ口の樹一本が植えられているだけ。低い木柵でまわりを囲んだ広さは約一六平方メートル。五島灘に面して海景色の美しさで人気の観光スポットだ。

この公園がつくられたのは二〇〇一年。特に夕日が沈む頃、刻々と表情が変わっていく海のすばらしさを味わってもらおうと、島に住む有志で手づくりした。ベンチの支柱、座面と脚には丸太が使われ、背もたれにはちょっと曲がりくねった山の枝木を取り付けてある。じつは丸太は木の電柱の廃材を利用したという。傍らに立つシユロの葉が風に揺れ、木柵の板の形も白いペンキ塗りも懐かしく、惹き付けられてしまう。きれいに保たれているのは、メンテナンスや足元の植栽を島民が協力して行ってきたからだ。松島の人口は三六〇人余り。日本一小さな公園の姿から、島の人たちのやさしく人を迎え入れる気持ち伝わってくる。

アクセス 瀬戸港から松島までカーフェリーで約15分、松島港から公園まで車で約10分